

委員会だより

<11月5日(日) 13名出席>

【1】財務報告：00.10月度決算報告 ()内:00年度年間予算

	00°収入累計	00°支出累計	収支差額
一般会計	5,641,067 (6,257,868)	4,925,692 (6,157,868)	715,375 (100,000)
建設会計	3,477,764 (3,356,956)	1,203,890 (2,795,000)	2,273,874 (561,956)
愛の献金	610,726 (780,065)	551,762 (320,000)	58,964 (460,065)
信徒預金	724,454 (619,375)	238,253 (440,000)	486,201 (179,375)

▶特記事項：◆一般会計：オルガン修理(13,650)、戻し(バザー準備金100,000、卓球大会38,253)

◆バザー収支計算：収入計：582,523
支出計：66,053 バザー収益：516,478
その他収益計：55,000 ■収益合計：571,478
注：今後の支出予定(役所30,000、同志会20,000)

【2】議事内容：

- 山崎神父様復帰によるミサ司式補助方法：
 - ◆当分神父様の様子を見ながら決めていく。
 - ◆祭壇は車椅子から手を伸ばしやすい様5cm低くする
- 待降節：
 - ◆12月10日(第二日曜日)告解(鶴飼神父様担当予定)
 - ◆11月19日クリスマスの飾り付け
- 11月12日七五三のお祝い：鶴飼神父様司式。該当事4名。
- 2001年の教区監査：
 - ◆1月28日(日)に実施故、信徒総会は1月21日(第三)とする。
 - ◆来年度予算は、取り敢えず11月時点の資料で提出。
- 一粒会の報告：9月分、10月分の収入は33,700円。
- バザーの反省(福島さんより)：
 - ◆壮年会、婦人会例会で纏める。後で別途報告する。
- 11月3日の「死者の為のミサ」(位田さん提案)：
 - ◆来年から教会全体の物故者の為のミサとしては⇒委員会了承
- 掃除のモップ(花坂さんより)：
 - ◆ダスキンのようなものを検討してはどうか⇒婦人会で検討
- 文具(位田さん取り纏め)：
 - ◆カタログ販売の「アスクル」で纏めて安く購入する。
- 湘南短期キリスト教セミナーの10月29日実行委員会報告：
 - ◆中和田教会は、副委員長:石井さん、渉外担当:小野寺さん、会計担当:清尾さんの布陣で臨む
 - ◆開催の細目段取りについて報告。
 - ◆中和田教会分担金は(出来れば)前回と同じ3万円としたい
 - 11/11:坂東性純:坂東報恩寺住職「神と仏」
 - 11/18:太田美智子:旧約聖書学者NGO「地に平和」代表「天に栄光地に平和」
 - 11/25:加賀乙彦:作家、精神科医「ザビエルと高山右近」
 - 12/02:奥村一郎:カトリック司祭「日本人の霊性と福音」
 - ◆来年度は大船教会が担当予定。

壮年会だより

<11月19日(日) 12名出席>

- (1)教会委員会(11/5)の報告会長、他
 - ◆第9回湘南短期キリスト教セミナー開催に伴う経過報告と講演内容の感想(小野さん、石井さん、七浦さん)。全4日の内、1、2日目終了しましたが、何れも内容の濃い素晴らしいもので、感銘深く聴講されたそうです。
 - ◆10月度財務報告で、教会バザー収支について甲斐さんから詳しく説明がありました。生憎の降雨にもかかわらず、予想以上の売上で、大幅な収益に繋がったことは大変な喜びで、皆様のご協力に対し心からの謝意がありました。
 - ◆山崎神父様の御ミサ司式(車椅子使用)のお手伝いは現在

- 侍者をしている武田さんがよく勤めて下さいます。しばらくは武田さんに頑張って頂き、次なるフォローは充分手筈が整いつつあります。(武田さんのピンチヒッターの手配)
 - ◆12月24日のクリスマス深夜ミサは、午後8時から上杉神父様の司式により行なわれます。御ミサ後の祝賀パーティーは従来どおり。詳細については次回の委員会で決定。
 - ◆教会バザー収益金の一部5万円を「対外支援」として、老齢司祭を援助する会、行政の福祉関係の2ヶ所に寄付。
 - ◆クリスマスへの待降節にあたり、赦しの秘跡が12月10日(日)鶴飼神父様により行なわれます。また青年会の皆さんによりクリスマスツリーの飾りつけが本日終了。
- (2)議案とお知らせ
- ◆12月の聖書朗読、奉獻奉仕は、12/3(七浦さん)、12/24午前9時ミサ(山田さん)、午後8時ミサ(井上さん)です。
 - ◆秋のハイキング:11/23(祝)初冬の鎌倉路ぶらぶら歩き。
 - ◆バザー委員会より、壮年会としてのバザーへの意見をまとめて欲しいと要望があり、皆さんで討議しました。様々なご意見、ご感想を集約し、今後のバザーの在り方に十分役立て、これからのバザーが楽しく計画運営され、最良最大の効果が得られることを期待したいと思います。
 - ◆東原さんより、亡くなられた奥様の五十日祭、納骨式が滞りなく終えられたとのお知らせを頂き、重ねてのお礼の金一封を頂戴いたしました。
 - ◆本年度の会計収支をまとめる時期を迎えました。例年に比し繰越金が多く見込まれるようで、その増加分を如何に処理すべきか、次回の定例会で検討したいと思います。

婦人会だより

<11月19日(日) 37名出席>

- 委員会報告
- 松尾秀子さん、御病氣御入院婦人会より御見舞。
- 11月3日(初金)婦人会員の亡くなられた方の為のミサにご参加いただきまして、有り難うございました。
- 10月29日、バザーのお手伝いいただきまして、有り難うございました。
- バザー反省会
- 婦人会バザー会計報告、当日純利益、290,644
当日後残品売上高、61,841
以上今年度のバザー収益(残品売上高含む)は、建設資金に、入れさせて、いただきました。
- 特別会計の方から、寄付金支出予定
 - ◆フマニタス 1万円 ◆カリタス 2万円
 - ◆いのちの電話 1万円 ◆心の灯 1万円
- お知らせ
 - ◆12月3日、カトリックセンターにて、東ティモール難民救済の為の講演会とチャリティコンサート
 - ◆11月24日 同志会総会

次回例会は12月17日(日)、次回当番はB地区です。

ミサ当番表 (2000年12、2001年1月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
12/3	待降節第一主日	婦人会B地区	岩 淵
12/10	待降節第二主日	壮 年 会	森 脇
12/17	待降節第三主日	青 年 会	森 田
12/24	待降節第四主日	婦人会B地区	保 科
12/31	聖家族	壮 年 会	美 底
1/7	主の公現	壮 年 会	岩 淵
1/14	年間第一主日	青 年 会	森 脇
1/21	年間第二主日	婦人会C地区	森 田
1/28	年間第三主日	壮 年 会	保 科

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏:TEL 802-6258)迄お申し出下さい。

広報 なかわだ

第264号

今月の予定

委員会	12月 3日
壮年会、婦人会	12月 17日
赦しの秘跡	12月 10日
御降誕深夜ミサ	12月 14日
サロン	12月 10日
レジオ	12月8,15,22日



2000年 12月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成12年 12月 3日



退院のあと ②

山崎 正 俊



すべて神にみちみてるものに

満たされんためなり

(エフェソ 319)

キリストの教会は、愛の教会ですといわれています。キリストさまが、最大の掟として教えられたからです。ご自分が人として此の世にお生まれになったのは、すべての人が「お互いに助け合い、仲よく生きること」を忘れずに、「この教えから離れないこと」を、「おん父」のおすすめてとして教え、そのために、その「おいのち」をおささげになるためでした。

その教えをご自分も守り、人々にも守らせるように、そのすべてをおささげになったのです。そして、弟子を選び導かれました。それでも、このおすすめては、むずかしかったようです。この教えは、それ以来2000年近く、はっきりと教え示されています。あの弟子たちは、使徒として尊敬され、信頼されているのに、いろんな考えの先生があつて、私も困っております。いまの教皇様は何年か前に、「戦争は何も解決しません。弱い人たちを苦しみに落としているだけです」と、「平和のためのお便り」をお出しになっているのに、その同じときに、いつも神様から権威を与えられて、その国民を天国に連れてゆくはずの指導者のための、教科書のような、新しい時代のための書物で、その人たちには、何かの理由があれば「戦争をする権威が与えられている」と出しています。

昨年と同じ頃に、私はびっくりしました。天国に行ける人は、自分が天国に入れるならば、「結婚式場に必要ランプと油を十分に持っているなら、それに気がつかなかった娘さんたちが式場に入れてもらえなくても、自業自得だと軽蔑して、何も教えてやらなくてもかまわない」というような聖書の説明が、カトリック新聞に出ていました。――パウラモンタルさん。この私のためにも、わからせてください。

退院してから今日始めて、車椅子で、日曜日のごミサを皆様の前でおささげできました。有難くて有難くて、声もつまるほどでした。それに続いて、私のための霊名のお祝いとしての「霊的花束」と、お祝いのお言葉(それまでの共同祈願にあった私のためのお祈りが、感謝の祈りになっていくもの)を贈っていただけました。ろくでもないことしか出来なかった私のために、これほどの喜びをおささげくださっていた皆様に、何をもってか、ふさわしくお報いできるのでしょうか。どうか私にも、これからも、イエズスさまに従って生きさせてください。

(2000. 11. 5)

壮年会ハイキング 秋の鎌倉、裏大仏コースを歩く

竹内 広治

今にも泣き出しそうな空模様と、やや意地の悪い気象情報が出されているにも拘らず、三世代混じりあった元気一杯の団がJR戸塚駅前を埋めつくし、その数ざっと18名。スタートを今や遅しと待っています。しかし、厳しい冷え込みに我慢がならず、手袋を求めに売店へ飛び込む方々もみられます。その手袋も、赤色あり白色ありブルーカラーもありで、なかなかカラフル。18名全員が色とりどりの手袋を着けて、両手を振りながら歩いたら、さぞかし賑やかで人目を惹いて面白かるうなどと想像しきりのその内に出発進行と相成ります。やがて北鎌倉駅前の広場に立つ。この休日を楽しもうと思う人は我々だけではないようで、かなりの数のグループが三々五々駅前を後にしています。

左に円覚寺、右に東慶寺という定番コースはやり過ごし、浄智寺門前にて山田リーダーの指導の元ストレッチを行なう。お陰でコチコチの筋肉もいくらか柔らかくなったような気持ちだ。おまけに身体も暖かくなり、気がついて空を見上げると、心なしか雲が切れはじめているのを見る。前途に光ありだ。通りを行く人達が、ストレッチ中の我々をいぶかしい面持ちで眺めて去って行く。およそ鎌倉人種らしからぬ振る舞いと映ったか。ともあれ、我々は鎌倉の山岳コースを踏破するのだと、心に叫ぶその意気や正に壮。とはいうものの、怪我をしないようにゆっくりゆっくり歩きましょう。

浄智寺総門前をスタートし、鐘楼を兼ねた山門を右にして、源氏山公園登山口の標識に従い、いよいよ急な石段を登る。いつしか細い山道と変わり、樹木がいつそう茂みを増して、些か深山幽谷のていをなしてきた。細い尾根道の上下りの繰り返しが続くうち、時々息の弾みを慰めるような平らな道が現われる。人家があり、庭先に良く手入れされた形のよい植木を見かけると気持ちが和み、加えて美しい花が風に揺れている様を目にすると、ここのお宅の暮らしぶりが想像されて微笑ましい気分になる。「お幸せに」と呟きながら歩みを続ける。

息が弾み始めて止まらない。疲れてきたのだろうか。脳がしきりに休め休めと指令してくる。時間的には葛原が岡神社が間もなくの筈である。

神社の由縁を読みながらの一休み。日野俊基の墓に詣でて、ひととき太平記の時代に思いを馳せる。天下争乱のまっただ中、我々が歩いているこの道を、ものものふの団が南へ北へ駆け抜けていったであろうと想像するととても楽しく、空想への自由な広がりが何処までも続くのが、歴史の街、鎌倉の魅力の一つであろう。

源氏山公園の芝生の広場に出る。楓の木が何本かにまとまって鮮やかな紅葉を披露している。生憎薄雲ってはいもの、色の鮮やかさは正に季節の象徴たるを失わない。一同感嘆ひとしきりで、「お弁当はここで頂きましょう」ということ。そうと決まればお後は早いのが相場で、疲れた足も何のそので、次の銭洗い弁天へと歩み始める。思ったよりも参詣客が多く、境内は人と、立ち上る線香の煙でいっぱいである。あれこれ覗いていると、人が指差しながらにやら騒いでいる。リスがいるのだ。休み茶屋の傍らの大きな樹の枝の先を走り回っている。人間どものざわめきもなんのその、垂直に登り下りを繰り返している内、アッという間に視界から消えていってしまった。その愛くるしさで鎌倉のアイドルといわれた時もあったようだが、大分悪戯が過ぎたらしく獣害とまでいわれ、淘汰の噂もちらほらと。

先程の芝生広場にUターン。待ちかねたお弁当を頂く時間と相成った。心配し続けた天気も予想を裏切って晴天に向かっていくようで有り難い。皆さん思い思いに敷物を敷き、お弁当はもとより、果物やお新香、お菓子などなどを広げ、百花繚乱の有様。ご馳走づくめの野外パーティーの趣あり。当然の事ながら、単身赴任参加だから、あちこちから旨いものを勧められ、有り難いこととございました。ご馳走様。

さて、山田リーダーのザックは不思議な玉手箱のようで、中から飲料水をはじめ、コッヘル、人数分の紙コップ、コーヒー、シュガー、ミルクまで出てくる出てくるのには、唯々びっくりの連続でした。おにぎりを頬張り乍ら、喫茶店のマスターに変身しての大サービスには、恐縮の極みでありました。頂いたコーヒーの味は美味そのものでありますが、わざわざ重いザックを背負って我々を喜ばせてくださるその優しいお気持ちを有り難く思い、唯々感謝あるのみです。

楽しいお昼も終り、一同満ち足りた足取りで最後の難関、下りの多い坂道にチャレンジ。途中いろいろありましたが、怪我なく無事に下山できました。枯葉を踏みしめて来た靴の裏のソフトな感触と違って、街の道の硬さが現実への目覚めとなりました。ほどなく大仏とご対面。相変わらず美男におわずと感心し、本日の裏大仏コース完走終了には早すぎるとかで、長谷観音まで足を延ばし、すっかり晴れ上がった秋の空と、穏やかにたゆたう鎌倉の海を満喫して、満足うちに帰路につきました。

JR戸塚駅にて解散。元気一杯の女性軍は、これより二次会へのご出発されたようです。すっかりスタミナが切れ果てた某には羨ましい話。二次会へ行かれた女性軍のその後の消息は不明とのこと。



濱尾大司教の近況【1】

『バチカンで世界の難民異動者問題の解決に奔走する日本人司教』として雑誌Agora (JALの広報誌)3月号に掲載された記事を三回に分けて掲載致します。



1998年6月、18年間、横浜教区長だった濱尾文郎(ふみお)大司教(69歳)は、教皇ヨハネ パウロ2世からローマ教皇庁の移住 移動者司牧評議会議長に任命された。カトリックの中核、バチカン市国の行政機関である教皇庁には9つの省と11の評議会があり、大臣ポストに相当する評議会議長に日本人が抜擢されたのは初めてのこと。民族紛争は絶えず、難民や強制移住の問題は21世紀の世界が直面する最大の課題だけに、濱尾大司教への期待は大きい。

濱尾文郎

バチカンで世界の難民・移動者問題の解決に奔走する日本人司教

濱尾文郎(ふみお)大司教(69歳)は、教皇ヨハネ パウロ2世からローマ教皇庁の移住 移動者司牧評議会議長に任命された。カトリックの中核、バチカン市国の行政機関である教皇庁には9つの省と11の評議会があり、大臣ポストに相当する評議会議長に日本人が抜擢されたのは初めてのこと。民族紛争は絶えず、難民や強制移住の問題は21世紀の世界が直面する最大の課題だけに、濱尾大司教への期待は大きい。



撮影: 齋藤康一 文: 横河和夫

よこかわかずお氏
ジャーナリスト。1937年小樽市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒。共同通信社社会部記者、論説兼編集委員を経て97年に独立。共著に『かげろうの家』『ぼくたちやっとな』など。著書には『大切な忘れもの』『もうひとつの道』。ルポ『仮面の家』では93年度日本新聞協会賞を受賞した。

<濱尾大司教様 略歴>

- 62年にローマのグレゴリアン大学を卒業し、教会法博士号を取得。
- 70年に司教に叙階され、東京教区補佐司教となる。
- 80年に横浜教区長に就任。併せて宗教法人カトリック横浜教区代表役員、学校法人望トマス学園理事長に就任。
- 95年に日本カトリック司教協議会会長。FABC(アジア司教協議会連盟)の人間開発局長、教皇庁立正義と平和評議会評議員に就任。
- 98年に教皇庁の移住移動者司牧評議会議長に任命され、大司教に就任。
- 99年5月には教皇庁の福音宣教省委員に任命される。
- 著書に『生きる意味を聞く』『キリストのまなざし』『正しさをもとめて』(中央出版社)、『聖書のこころ』『愛と希望と祈り』(講談社)『生きる勇気のことば』(PHP研究所)『隣人』人との関わりを喜びとする聖書の言葉』(日本聖書協会)など。

1. バチカンの新たな姿勢を象徴する機関の長に

午前七時四五分。バチカン宮殿の地下駐車場出口から濱尾文郎大司教が運転するシルバーグレーのアルファロメオが飛び出してくる。

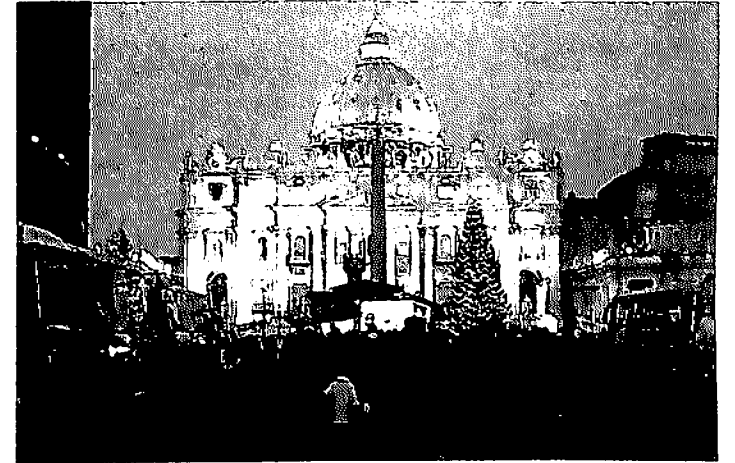
ローマ市内をテベレ川沿いに南に進むとトラステヴェレ街に入り、道は石畳に変わる。昔はユダヤ人や貧しい人たちが住んでいたローマの下町だ。その一角に三階建ての建物がある。建物の敷地はイタリアの治外法権で、教皇庁の各評議会の事務室が入っている。

「移住移動者司牧評議会が何をやるのかは一年が過ぎて、やっと分かってきた感じです。1965年に終わった第二バチカン公会議の精神に沿って、社会に開かれた教会に刷新するためパウロ六世の英断で設置された11の評議会の一つなんです。それまであった省は、福音宣教省、教理省といった具合に、みんな教会内部の問題を扱っていました。ところが評議会は、正義と平和評議会、諸宗教との対話評議会、家庭評議会といったように、すべて現代社会にかかわる問題を扱うところ。バチカンの新しい姿を社会に打ち出す行政機関と言ったらよいでしょう」

黒の背広上下にローマンカラーをつけ、身長172センチ、体重100キロを超すという巨漢は、外国人の中でもひげをとらない。

午前八時過ぎ。車を降りた濱尾大司教は、一階の移住移動者司牧評議会事務室に入る。既に出動している七つの課の職員に挨拶を交わしながら議長室に入る。

七つの課は①移民②難民③船員航空④流民⑤移動⑥留学生⑦旅行巡礼といった具合に、移動を余儀なくされた人たちが対象。



イルミネーションが施されたサンピエトロ寺院。広場にはベツレヘムの馬小屋を模したクリスマス飾りと縦の木のツリーが。

流民課は偏見差別の目で見られがちな、昔はジプシーと呼ばれた人たち、移動課はサーカス、移動遊園地で働く人たちの問題をも扱っている。課長職には、その道に詳しい神父が就き、各課には三、四カ国語が自由に話せるシスターや女性たちが秘書として働いている。スタッフは20人だが、出身国別だと22カ国にもなる。

「お蔭で僕も日本の代表という意識はなくなりました。みんなのために一緒に働く共同体という雰囲気です。うれしいです。就任してから訪れた国は、アルバニア、モザンビーク、ジンバブエなど10カ国近くなりますが、難民など僕の評議会が扱う問題の奥には必ずといっていいほど、人身売買や売春、覚醒剤、マフィアといった問題がひっかかっています」